

# ライフケアガーデン湘南 ココタウン訪問看護ステーション

症 例 概 要    利用者指名：NT様（60代 男性 要介護4）

利用期間：平成29年1月初旬～4月初旬    5月初旬～現在までライフケアガーデン湘南へ入居。

経過：傷病名：ALS（筋萎縮性側索硬化症）

現病歴：H28年6月T大学病院に入院。その後、K病院に転院（NIPPV導入）。同年11月末、胃瘻増設。12月末退院。H29年4月初旬K病院に呼吸器調整のため入院、5月退院。退院後ライフケアガーデン湘南に入居。

既往歴：大腸ポリープ（50代）、両側副腎結節（50代）、緑内障（高眼圧症）

## 内 容

ALS進行により訪問リハビリ（PT、OT）介入開始するが、H29年4月に入院、退院後は、在宅で過ごすことが出来なくなりLCG湘南へ入居、訪問リハビリの継続を望まれたためPT、OT、STの介入を継続、あわせて施設の看護師および介護士スタッフ、ケアマネージャーとの連携を図り対応した症例。一流企業に勤める社員として仕事をバリバリこなしていたが、平成27年より歩き方がぎこちなくなり、座っていると首が直角に曲がるようになり、受診の結果ALSと診断。会社も退職せざるを得ず徐々に進行していく病魔に悲観し、ご家族もずっと家でみていけるのか不安で自信がなく話すことも出来なくなり行く中、一縷の望みを託してリハビリテーションを開始した。懸命に取り組むスタッフを見て少し元気を取り戻したが進行経過が早く、呼吸苦訴え入院となり退院後在宅生活はこれ以上無理との判断からLCG湘南へ入居した。LCG看護師、介護、在宅スタッフでNTさんの対応について検討を行い気管切開を行わず進行する病状の中でも希望を失わず過ごして頂ける方法を話しあい施設在宅の連合チームで取り組んだ。NTさんは慣れない環境と要求度の高さから、頻回のオンコール、背中マッサージなど施設スタッフにとってはALSの進行した患者さんを受け入れることが初めてのため大変であったが、LCG看護師が『やれることはやってみましょう』と奮起し、各職種の専門性を発揮して看護師は毎日のアロマを活用した疼痛緩和ケア、STは言語、嚥下訓練、介護スタッフは可能な限り頻回の見守りに取り組みご家族への情報共有も細かく行った。その結果、徐々にではあるが、思いが伝わり、病状は進行しているがほぼ毎日ご家族が来られスタッフとご家族に囲まれて可能な限り自室を出て笑顔で過ごされている。